

●復活後第四主日

# 泉のほとり

今月の詩編「第百十三編」

わたしたちの神、

主に並ぶものがあるうか。

主は御座を高く置き

なお、低く下つて天と地を御覧になる。



## 姦淫してはならない

十戒の第一から第四までは主なる神と私との本来の關係に立ち返らせる戒めであり、第五からは人との關係についての具体的な戒めが語られます。第六戒「殺してはならない」が内側にある怒りや憎悪を人殺しと見たように、十戒全体は人の行いと心の不一致を容認していません。むしろ不一致を自然とし、十戒にも適用する、人の偽善性に気づかせ、それを排除しようとしているのです。第七の戒め「姦淫してはならない」は、特にそのことを教えています。

人は「行動」に移さなければ「姦淫」とは見なさない表面的な認識を持ちがちです。外側においての「姦淫」でなければ問題にならず、反対に外に知られるようになつたら大問題になるというのは、今のキリスト教においても同じではないでしょうか。しかし主イエスは「情欲を抱いて他人の女を見る者は誰でも、既に心の中でその女を犯したのである」と、人の偽善を第一に指摘されました。「体の一部がなくなつても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである」との警告には姦淫のみならず、それに偽善を帯びている人のあり方への激しい御心が表れています。

当時、「他人の女」でなければ許されるとし、「離婚状を渡せ」とのモーセの教えを根拠に、あらゆる理由や口実で妻に離婚状を渡して妻を捨て、情欲の赴くまま他の女や離婚した他人の妻であつた女と結婚し、神の律法を破つていないとしていた民の現状がありました。その曲がつた心の人こそ自分は不法を行なっていないと思ひ、他人様の「行動に移した姦淫」には厳しい目で裁くのです。自らを神の律法の守護者であるかのように振る舞うその「人の偽善」に対するキリストの憤りが、「目を抉り出せ」という警告に表れていたのです。ここで、一つ注目したいのは、人はこれほどに姦淫を愛しているということ。そして、今でも自分に例外を見つけ出し、他人の女でなければ許

されると思ひたい。その隙を見る心理が働くことは2000年前と何一つ変わっていないと思ひます。

情欲は、意図的でなくても目を惹きつける異性を見た瞬間には既に生じているのです。全人類ができないと絶望するほどと思ひますが、「どうせできないから」と自分の「よし」とする程度で受けてはなりません。主のことはそのまま素直に受け入れる信仰の姿勢が何よりも重要です。その姿勢で自分自身を見ると、人に唯一できることは、目に見える行いのみならず、私の内側まで神にすべて知られているという事実立ち、自分自身を加減なく見て、内側の真実を何一つ曲げず、隠さずに表示することです。しかし、そうする人は、神の教えを拒み愛さない自分のみならず、神が与えられた隣人や妻をも自分自身の手段としてきたことに気付かされ、本来立つべきところが見え、そこへ立ち帰らされます。姦淫を愛し神の戒めを嫌う心であつても、神はご自身に真実に表すものを蔑まれません。

第七の戒めは「性欲」そのものを禁じるものではありません。本来、人の「性」は神に「よい」とされたものでした。しかし最初の人アダムが神の前で自分の裸を隠し、木の後ろに隠れていたように、人は「性」に関して特に神の前で隠す現実があります。教会の中でも「性」は敬遠される傾向があり、クリスチャンゆえに、偽善に陥る危険性があるのを見ます。しかし、すべてを知つておられる神に、自ら進んで内側をあらわにすると、光に照らされ、暗闇の中をつまづくことなく歩く道が見えてきます。

十字架は恥辱の象徴です。主が私の罪のために裸にされ嘲られたのは、私たちが神のひかりのもと、何一つ闇のない道をつまずかずに歩かためです。主がその恥辱さといわずさうなざつたのであるなら、自分の恥と思ふこともすべてさらけ出し、何一つ隠すことなく神の前で歩んで生きようではありませんか。偽善の服を何もかも脱ぎ捨て、真実に近づく者を神は侮れません。十字架の主の励ましを受け、大胆に恵みの神に自分自身をあらわにし、近づこうではありませんか。

2026年度

## 教会全体課題

神さまによって

示された新しい歩みの中で、  
キリストの体としての一致を  
祈り求める

ーコミュニケーション、交わり、  
伝道、学びなどを通してー

## 《今日のお知らせ》

○ 礼拝後、教会員懇談会と信者に学ぶ会を地下ホールで行います。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。タイムスケジュールは左記をご覧ください。

○ 運営委員会、各小委員会がそれぞれ行われます。

○ 次回の洗礼、転入会式は七月二六日です。その時に、受洗、転入会をご希望の方は五月一七日までに願書をお書きの上、牧師宛ご提出ください。願書は事務所にあります。

## 《役員会より》

本日のタイムスケジュール

礼拝終了後 軽食の時間

一二時一五分〜教会員懇談会

一三時一五分〜信者に学ぶ会

一四時〜各小委員会

※懇談会以降の時間は目安です。

## 《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

## 《ルツ会より》

次週、礼拝後ルツの会を地下ホールで行います。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

## 《教会事務所より》

【お願い】 状差内の整理について

現在、これまでの配布資料が状差に残っており、配布物を入れるスペースが限られているところも見受けられます。五月の総会に向けて資料配布の時期が近づいておりますので、円滑に印刷物を投函できるよう、状差内の整理にご協力をお願いいたします。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇百十三篇】賛歌。

ハレルヤ。主の僕らよ、主を賛美せよ

主の御名を賛美せよ。

今よりとこしえに

主の御名がたえられるように。

日の昇るところから日の沈むところまで

主の御名が賛美されるように。

主はすべての国を超えて高くいまし

主の栄光は天を超えて輝く。

わたしたちの神、主に並ぶものがあるうか。

主は御座を高く置き

なお、低く下つて天と地を御覧になる。

弱い者を塵の中から起こし

乏しい者を芥の中から高く上げ

自由な人々の列に

民の自由な人々の列に返してください。

〔司・会〕

子のない女を家に返し

子を持つ母の喜びを与えてください。

ハレルヤ。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「神の言葉を自分勝手に解釈しない」

聖書 二ペトロ1章20〜21節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「主イエスを教える聖書」

聖書 ヨハネ5章34〜40節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

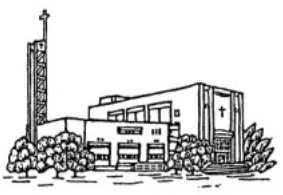
●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讚美歌 148番 321番

説教 「主の弟子として歩む中で」

聖書 使徒9章32〜43節

説教者 宮間彰広兄





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 156番 374番  
説教 「盗んではならない」  
聖書 出エジプト記20章15節(旧約 P.126)  
司式 山下 純一 兄  
聖餐司式 黄 允湜 牧師  
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「試みの世にあれど」 F.D.アッシュガウ

### ○讃美歌156番

1. 主は活きたもう 死ははや敗れて  
いのちのかどは 今しもひらかる ハレルヤ
2. 主はいきたもう みまもりうくれば  
世も死も陰府も わが身をうばわじ ハレルヤ
3. 主はいきたもう あめつちこぞりて  
主の主とあがめ きみとしたたえよ ハレルヤ
4. 主はいきたもう みくにのやすきと  
つきせぬいのち うくるぞうれしき ハレルヤ

アーメン

### ○聖歌隊による讃美

「死の鎖を」 12世紀ドイツ讃美歌

1. 死の鎖を 解き放ちて  
救い主イエスこそ  
よみがえりましぬ  
主よ 憐みたまえや
2. よみがえり無くば  
なお死せる身を  
死に勝ちし主は  
生かしたまえり  
主よ 憐みたまえや
3. 死の鎖を 解き放てる  
救いの主(ぬし)をぞ  
我ら褒めたたえん  
ハレルヤ

### ○讃美歌374番

1. 主イエスにならいて み神のみむねを  
日ごとの糧とし よろこび努めよ
2. この世のさかえは 夢よりはかなし  
あめなるほまえを 望みてつとめよ
3. あてなくさまよう この世の友らに  
みかみのまきみち たゆまず教えよ
4. のぞみをうしない 去りゆく人あり  
すくいひのひかりを たえせず掲げよ
5. はなむこきたりて めさむる者をば  
ほむる日まぢかし 忍びてつとめよ

アーメン

聖餐曲「キリエ、永遠の父なる神よ

キリエ、聖霊なる神よ」 J.S.バッハ

後奏曲「協奏曲変ロ長調より(アレグロ)」 J.G.ヴァルター

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。